

# ふれあいとぬくもりのある地域づくりを 高齢者の出番を増やそう！

豊かな人間関係を育む、町の文化や歴史を伝える、やすらぎを分かち合う、少子高齢化が進む中、地域の役割はますます重要になっていきます。

老人クラブは発足以来、地域づくりに向けたさまざまな活動に取り組んできました。その活動は、いつの時代も、そこに暮らす人たちにとって、ふれあいとぬくもりのある場所となるように、世代を超えて人と人をつないできました。

近年、高齢者の地域活動への参加に大きな期待が寄せられています。そこで、全国の活動の中から、安全・安心、環境、世代間交流、地域活性化の取り組みと、人口の減少と高齢化の中で、地域の存続（地域づくり）を目指して取り組んでいる事例を紹介します。

みなさんのクラブや老連でも、これからの地域づくりについて話し合い、高齢者の出番を広げていく窓口となっていきたいと思います。

## 〈安全・安心〉

### 見守り活動で安心できる地域づくり

大阪市東淀川区 井高野老連 会長 樋口正義

ロコミで参加者倍増  
月刊「全老連」で「子ども見守り活動」の紹介記事を見て、自分たちの地域でもぜひ取り組んでみたいと思い、平成18年から活動を開始しました。当初40名だった参加者は、ロコミにより3か月で100名に増え、現在は180名が活動に参加しています。  
取り組みにあたっては、事前に学校、PTA、A、社会福祉協議会と打ち合わせを行いました。活動の時間帯や見守り場所について要望を聞



ただいま見守り活動中

き、その後各地区でメンバー表を作って取り組んでいます。現在は毎日、下校時間に合わせて約1時間半、2名1組で町内8か所に立っています。  
住みよい街づくりに向けた老人クラブの役割  
子どもたちの中には高齢者の顔を覚え、道

じています。

### 野草を集めた植物見本園

今年度は、小学生にも分かりやすいように、地域の野草を集めた植物見本園を作ろうと取り組んでいます。この他、樹木の名前と地域にゆかりのある事柄を紹介した植物図鑑の企画や、植物をテーマにした俳句を記した札の設置など、多くの人に関心をもってもらうにはどうしたらよいか、みんなで考えています。「あそこの公園に行けば、町の自然や歴史、文化のことがわかる」と言ってもらえるように、これからは、町の歴史保存に取り組んでいる「資源を守る会」と連携をとりながら、活動に取り組んでいきたいと思っています。そして、私たちの活動を通じて、自然を大切に

ふれあいとぬくもりのある地域づくりを  
～高齢者の出番を増やそう！



地元テレビ局の取材を受けながら、名札付け

## 「植物を守る会」の発足

### ふるさとの自然を愛する人づくり

三重県度会町老連「植物を守る会」会長 馬瀬章

地域の人に身近な植物に関心をもってもらい、町の美しい自然を守っていこうと、度会町老連は昨年「植物を守る会」を発足しました。その後、町の協力で地域づくり活動をサポートする県の事業「美しく国おこし・三重」のパートナーグループに認定され、専門家の指導を受けながら活動に取り組んでいます。活動場所は、子どもから大人まで多くの人を訪れる「宮リバー度会パーク」です。昨年は、公園内の134本の樹木に名札を付けました。7月から9月の3か月間、樹木の選定と調査を行って仮札を付け、専門家に確認してもらいました。名札の材質や取り付け場所も検討を重ねて試行錯誤の結果、篆刻の研修を受けて名札も自分たちで作りました。今年もすでに約70本の名札付けを終え、昨年よりスムーズに作業ができるようになったと感



みんなで名札の作製中

ふれあいとぬくもりのある地域づくりを  
～高齢者の出番を増やそう！

〈世代交流〉

# 田んぼの学校のお手伝い

和歌山県有田市糸我千寿会会長 伊藤介隆、元会長 桑原清司

全校生徒で取り組む米づくり

糸我町は、有田市の東に位置する有田みかんの里です。米づくりも盛んな町でしたが、近年、田んぼの数が少なくなってきました。「田んぼの学校」は、地元の糸我小学校と青少年育成会が20年前に始めました。数年後、老人クラブに協力の要請があり、以来いっしょに取り組んでいます。米づくりは1反の田んぼを借りて、アイガモを使った無農薬農法



いきいきと苗を植える子どもたち

で、田おこしから、種まき、田植え、収穫、アイガモの飼育に至るまで、全校生徒(約120人)が、すべて手作業で取り組んでいます。

老人クラブの役割は、田植えや稲刈りの時のサポートです。特に、田植えが初めて雪まつりで地域の活性化

〈地域活性化〉

## マスケット作りでまじりを応援

長野県飯山市老連会長 小林常男

老人クラブは16年間、雪だるまのマスケット

を作って提供しています。

仲間の思いを引き継いで16年

平成8年、会場となっている飯山地区の会員が雪まつりの応援にマスケットを作ったのが始まりです。以来12年間、毎年作製していましたが、会員の高齢化により思うように作業ができなくなり、マスケット作りをあきら



メイン会場には市民手作りの雪像約200点

めかけていました。「せっかく続けてきたのに、ここで止めてしまっはもったいない」「これからは、みんなが続けていこう」と市老連が声をかけ、女性部が引き継いで作製す

ることになりました。マスケット作りは、閉じこもりがちな冬場に外出する良い機会となり、手先を動かしたり、仲間とおしゃべりすることで認知症予防にもなると好評です。こうしてできあがったマスケット(約350個)は、市長に手渡し、まつりのイベントに役立ててもらっています。中には、毎年マスケットを楽しみに参加している小学生もいると聞いています。こうして、雪まつりに貢献できることを光栄に思い、これからも続けていきたいと考えています。

〈地域づくり〉

## 健康づくりで過疎に立ち向かおう

高知県土佐清水市斧積老人クラブ会長 弘田浩三

地域崩壊の危機意識

7年前、斧積地区では急激な高齢化により田畑は荒廃し、伝統芸能も継続できなくなっていました。町には独居老人が増え、高齢者の閉じこもりや寝たきり、認知症などが問題となっていました。

ここで歯止めをかけなければ地域が崩壊してしまいう。老人クラブが中心となって地区長、婦人会、消防団等呼びかけ、話

元気村おのづみのねらい	
村おこしの中心	60代
はたらく現役	70代
サロンに集まる	80代
介護無用の	90代
めざすは	100歳元気老人
	「活動の菜」より

し合いの場を設けました。結果、人口の4割を占める高齢者が元気でなければ地域の活性化は望めないこと、住民みんなが力を合わせて高齢者の元気づくりに取り組んでいくことを確認しました。話し合いの結果をまとめた「活動の菜」は全住民に配り、共通理解を広げ、総力を集めて「元気村づくり」に立ち上がるうと呼びかけました。

グラウンド再生から生まれた大きな自信  
初めに取り組んだのは、グラウンドの再生



復活したグラウンド